

早稲田大学環境総合研究センター・ふくしま広野未来創造リサーチセンター
テーマ3:再生可能エネルギーとスマートタウン
準備会合

議事メモ

日時：2018年7月13日（金）15:00～18:00

会場：福島県広野町役場 301 会議室

記録：李 洸昊

出席者（敬称略）：

松岡 俊二	早稲田大学ふくしま広野未来創造リサーチセンター長 早稲田大学アジア太平洋研究科・教授
永井 祐二	早稲田大学環境総合研究センター・研究院准教授
島村 守彦	いわきおてんと SUN 企業組合・事務局長
橋爪 清成	福島県立ふたば未来学園高等学校
鯨岡 晋悟	福島県広野町復興企画課・係長

事務局

李 洸昊 ふくしま広野未来創造リサーチセンター事務局

1. テーマ案:「地域に根ざした再生可能エネルギー・スマートシティとは？」

(1) 第2回ふくしま学（楽）会におけるテーマ3の方向性

8月4日には、基本的に地域でエネルギーを発電し、地域で使う「地産地消」に焦点を当てて話をしたい。田村市が計画している木質バイオマス事業や島村さんが取り組んでいるコミュニティ型EVステーションのモビリティ事業などを参考にしながら、エネルギー生産がどれだけ難しいのか、エネルギーを本当に賢く使うことがどういうことか、ということを中心に考えたい。

また、なぜ再生可能エネルギー事業をする必要があるのかを根本的に考えさせることも重要である。なぜこれを始めたかを知って取り組むことと知らないまま取り組むことの結果はかなり異なると考えられる。最近の福島県における様々な再生可能エネルギー事業は、最初に考えていた意義を忘れてしまい、ただ単に事業を行っているケースが多い気がする。

(2) 第2回ふくしま学（楽）会におけるテーマ3の目標

テーマ3では、浜通り地域において再生可能エネルギーに関する論点をどのように立てていくのかを考慮する必要がある。どういう形で地域のオーナーシップを持っていき、地元で収益を出し、地元還元する仕組みづくりが重要である。このような仕組みづくりをどのようにすれば作れるのかを議論することがいいと考えられる。ドイツのシュタットベレゲのように、広域連携を通じて、地域で回せる仕組みをどのように作るのが重要である。

(3) 報告順番

- ① 高校生から大人に問いかける「なぜ再生可能エネルギーを使う必要があるのか」（ふたば未来学園高校生徒）

② 民間の取り組み「コミュニティ型 EV ステーション事業」(島村)

③ 地域の取り組み「田村市の木質バイオマス事業」(田村市)

④ まとめ(永井)

福島県が目標としている県内エネルギー需要の 100 %相当量を再生可能エネルギーで生み出すということが何を意味するのか?を中心に再整理

⑤ 広野町の取り組み「今後、広野町はどのように取り組むべきか」(鯨岡)

2. 考慮すべき点

原発事故から 7 年が経って様々な動きが出ている。このような点を踏まえて「復興」を考える時、どのような仕組みが必要なのか、次のステップが見えてくる何かもう少し具体的な仕組みがあってもいいのではないかと考えている。島村さんの取り組みもモデル化まで発展させればいいと考えられる。しかし、その時には、モデル化まで持っていくためには、どうすればいいのか、どのようなものが必要なのかなどの点を具体的に考える必要がある。

テーマ 3 は最終的にまちづくりでもあると考えられる。そのため、テーマ 1 とも統合的に考える必要がある。このような点を踏まえると、様々な形のエネルギー源を考慮しながら、色々な循環の形を作っていく、地域との適切な関係も築く必要がある。RC の 1 つの考え方は、広い範囲の地域を考えてほしいことであり、その意味から今後は広域連携が必要不可欠であると考えている。

以上